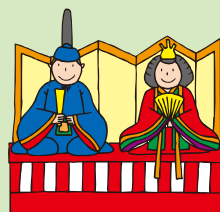


個性が輝く
おんな & おとこ
まちが輝く

とっぎゃざー

みんな仲良く一緒に

2014. 3. 第10号



八女市男女共同参画の実現に向けて

情報誌「とっぎゃざー」は、男女ともに個性と能力が十分に発揮できる八女市を願って名付けました。



栗原さちゑさん 中司カツヨさん 森山美智子さん 森田サツキさん

八女の地名が起こったといわれる八女津媛を祀った、1300年の歴史があるとされる矢部村の八女津媛神社。その八女津媛のお膝元で60歳代から80歳代の8人の女性が販売所を切り盛りされています。はつらつとした皆様に色々なお話を伺いました。



取材日 2013年10月30日

Q このお店の歴史をお聞かせください。

A 地域の人たちが集まって、共同のお店を作ろうということになり、昭和60年9月に開業しました。

最初は植木販売をしていましたが、その後、何人かで芋饅頭やふくらかし饅頭を作って販売し始めました。11月に開催される「矢部まつり」で出したよもぎ饅頭が好評だったこともあり、年間を通して作るようになりました。

□当たりのいい柔らかさや、よもぎのきれいな色を残すために、皆で試行錯誤して、現在のお饅頭になりました。よもぎは4月から6月の初旬に自分たちで収穫し、茹でて冷凍保存したものを使います。時には地域の方に分けてもらうこともあります。期間限定の栗饅頭も人気があります。

初めの頃は人手不足で、男性もよく手伝ってくれました。現在は知り合いに声掛けする形で集まった女性メンバー8人で作っています。

今では、日向神地区改善団体の組合員さんが、野菜や手作りの梅干し・らっきょう・漬物などを持ってきて販売するようになりました。お店の名前も組合員さん皆で意見を出し合い、投票で「出逢（であい）」

という名前に決めました。物や人との出逢いに感謝し、一期一会の気持ちを大切にしたいとの思いが込められています。お店の前の橋も「であい橋」と名付けられました。



メンバーの内2人は欠席（栗原ミサエさん、堀下照美さん）。6人で取材に応じいただきました。左から2番目 堀下幸子さん、右端 松尾勝代さん。

Q こんなにも美味しいお饅頭ですから、□□□で遠くから買いに来られるお客様もいらっしゃるのではないですか？

A そうですね、北九州から買いに見えることもあります。たまにですが、発送の注文を受けることもあります。矢部村にあるハート岩を印刷したはがきの注文を受けたこともあります。はがきは、ハートやイチゴの形をしたアクリルたわしを付けて販売しています。

先日、このはがきを買って帰られたお客様から「おばあちゃんと素晴らしい出逢いができました。またお会いしましょう。」と書かれたお便りが届いた時には嬉しくて、それ以来お店に飾っています。

Q 仕事を続けられていることに対して、「ご家族の反応はいかがですか？

A 家族はよく協力してくれます。年齢を重ねた今もこうして働いていることを褒めてくれます。まだ幼い子どものいる孫嫁は、子育ての合間によく手伝ってくれます。

Q 嬉しかったことや苦勞したことを教えてください。

A 作り始めた頃は8人が同じ質のよもぎ饅頭を作るようになることに苦勞しました。また、天神のアンテナショップに出していますが、朝6時にはトラックが出発するので、朝早くからの作業は、時々辛いことがあります。ですが、「ばあちゃん、まだがんばりよんの〜！ここは関所やけん寄らな帰られんばい。」と声掛けしてくださるお客様がいっぱいなので、とても嬉しいです。

熟練の技が光ります。



粉をこね、あんを入れて丸め、蒸してパックに詰めるまで約30分。

Q 地域が活き活きするために女性が活躍できる場があることをとても素晴らしいと思います。今後どのようにしていきたいと思われませんか。

A ★新商品の開発を、との声もありますが、あまり上げすぎても出来ないと思いますので、地元でとれたよもぎを使った手作りの饅頭を大切に伝えていきたいです。

★孫嫁が色々と手伝ってくれており、後継者の育成もしています。

★物を売るということだけではなく、人と人との出会い、一期一会の気持ちで接していくことを大切に、受け継いだものを引き継いでいけたらと思います。

★3年間日記を付けているのですが、感謝の気持ちをいつも記しています。★やりがいのあるこの仕事を健康でずっと続けていけたら嬉しいです。

視察研修報告

「たちはな男女
まちづくり委員会」



また、同じ火山地域との交流を図ろうと、東京三宅島、宮崎新燃、北海道有珠山の住民で年一回、まわしで学習会をされているそうです。

約20年前、雲仙普賢岳の噴火で未曾有の被害を受けたにもかかわらず、奇跡的な復興をなされ、以前にも増して素敵な「安中（あんなか）地区」を甦らせてあると聞き、昨年の豪雨災害で被害を受けた立花町民として、復興までの軌跡と老若男女の果たされた役割を学びたいと考え、11月14日、立花町全区の会員42名で、長崎県島原市雲仙普賢岳に視察研修に行ってきました。

まずは、NPO法人島原普賢会理事長の大町辰朗氏にご講演いただきました。

普賢岳の爆発は約5年間続き、一世帯の引越し回数は、少ない人で4〜5回、多い人は12回にも及んだそうです。



土石流で埋もれた家

「また、同じ火山地域との交流を図ろうと、東京三宅島、宮崎新燃、北海道有珠山の住民で年一回、まわしで学習会をされているそうです。」

93ヘクタールを6メートルかさ上げする事業と火砕流で生き残った木の植樹を、住民全員（男・女・子ども）が力を合わせ、民間主導で実施されたが、総論賛成、各論反対で苦労されたそうです。しかし、反対意見をしっかりと聞き、「生まれ育った所が一番よか。ここに根を張って生

苦悩された実体験から、自分たちのような苦しみを他の地域の人たちにしてほしくないとの思いを込め、赤裸々な文でありのままの出来事を132ページの記録誌にまとめられています。

まちづくりは地域がまとまれば何でもしやすく前に進んで行く。男性では気づかないところを女性に頑張ってもらったことや、この災害経験を防災教室で小学生に教えていくことにしているそうです。

この研修で男女共同参画まちづくりの原点を学び、大町会長の生き様や指針に感服しました。



ふるさとである島原を守り、永い火山との共生を目指し、生活基盤作り、経済再建を視野に入れた活気ある地域づくりは、地元の私達の責務であるときっぱりと言われました。そして、「災害が人間を異常にする」中で、嘆きながらも耐え抜き、

男性にとっての男女共同参画

男女共同参画というと多くの方が、「それは女性のためのもの」と感じるかもしれませんが、男性にとっても重要な問題だと思います。例えばこんな経験はないでしょうか。

- ◆育児休暇を取りたくても「奥さんがいるのに何で君が?」と取れなかった。
- ◆「男は弱音を吐くべきでない」との思いから、悩み事を相談できずにいた。

「男性だから」という意識が、あなた個人にとっても、社会全体にとっても重荷になっていることがあるのではないのでしょうか。

固定的性別役割分担意識

「男は仕事・女は家庭」等のように性別を理由として役割を固定的に分ける考え方のことを「固定的性別役割分担意識」と呼んでいます。女性が「固定的性別役割分担意識」によって社会進出を阻まれてきた、ということとはよく言われていますが、男性も、「男は仕事」、「男は強くなければならぬ」など、性別による役割の固定化を受けてきたと言えます。

「男女共同参画社会」のめざすもの

男性にとっても暮らしやすい社会を

私たちのめざす男女共同参画社会とは、男性だから女性だから、ということではなく、ともにその人権を尊重しつつ責任を分かち合い、個性と能力を発揮することができると社会です。男性自身の、男性に関する「固定的性別役割分担意識」を解消できれば、男性がより暮らしやすくなる社会を築いていけるのではないのでしょうか。



男性の家庭や地域参画に必要なことは?

男性の地域参画(※)に必要なこととして上位にあげられたのは

- ★夫婦や家族間のコミュニケーションをよくはかること
- ★男性の地域参画に関する男性自身の抵抗感をなくすこと
- ★男性の地域参画に関する社会の評価を高めること



(※)ここでは、男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加することを、男性の地域参画としています。

男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加するために必要なこと(複数回答)

男女共同参画に関する世論調査(2012年 内閣府)

夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること

男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと

社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること

労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること

年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること

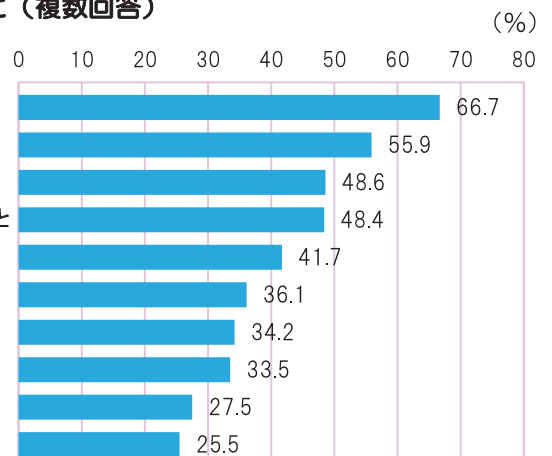
男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと

男性が子育てや介護、地域活動を行うための、仲間(ネットワーク)作りをすすめること

家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること

男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと

国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること



DV防止法&ストーカー規制法が改正されました。

●配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)

*「生活の本拠(主たる住居)」を共にする交際相手からの暴力及びその被害者」も法の適用対象となりました。



●ストーカー行為等の規制等に関する法律(ストーカー規制法)

*執拗なメールが続きまとい行為に追加されました。

*警察等が警告等をしたときは内容や日時を、警告等をしなかったときは理由を、被害者に書面で通知することになりました。

*ストーカー行為等の相手方に対する婦人相談所等による支援が明記されました。

*加害者の住所やつきまとい等が行われた地などの警察等も警告や禁止命令等を出せるようになりました。



女もする料理といふものを、
男もしてみむとて、するなり。

簡単料理 レシピ



材料（4人分）

豚バラ薄切り肉……200 g
塩、こしょう……適宜
セロリ……2本
中華めん……4玉

塩焼きそば

作り方

- ① 豚肉は1～2 cm幅に切り、セロリの軸は厚めの斜め切りにし、葉はざく切りにする。
- ② フライパンを熱して豚肉を炒め、肉に火が通ったら、塩、こしょうでしっかり味つけする。
- ③ 豚肉がカリカリになったら、出てきた脂でセロリの軸を炒め、さらに中華めんを入れて炒める。
- ④ 最後にセロリの葉を入れ、さっと炒めて出来上がり。

豚肉とセロリ、意外な材料の組み合わせだけど、これがやみつきになる好相性。辛いのが好きな人は、最後にラー油を回しかけても。



冷やして食べるとシャキッ！ 白菜のしゃきしゃきサラダ

あっさり副菜



作り方

- ① 白菜は細切りにして器に山盛りにする。
- ② ①に削り節とすりゴマをかける。
- ③ 食べる直前にゴマ油、しょうゆと酢を混ぜて、全体をざっくり混ぜる。

材料（4人分）

白菜……1/8 個
削り節……適宜
すり白ゴマ……大さじ1～2
ゴマ油……大さじ1
しょうゆ、酢…各大さじ1～2



あっさり副菜

とろみのついた汁でほっかほか ニラ入りかき玉汁

材料（4人分）

ニラ……1束
卵……1個
こぶ（1×10 cm）……1枚
削り節……2つかみ
塩、しょうゆ……適量
片栗粉……小さじ2



作り方

- ① ニラはざく切りにする。
- ② 鍋に水3カップと細切りにしたこぶを入れて火にかけ、沸騰したら塩、しょうゆで調味し、手で揉んだ削り節を入れる。
- ③ 同量の水で溶いた片栗粉でとろみをつけ、溶き卵を流し入れ、ニラを入れてひと煮する。



2013.10.26 於 黒木総合支所

コラムニスト、テレビのコメンテータでお馴染みのトコさんの講演会が開催されました。

テレビに出始めてずっと赤いメガネをトレードマークにしていたが、数年前、ある人の助言で勇気をもってピンクのメガネに変えたけれど、一緒に仕事をしているスタッフが誰ひとり気づかなかった。その時、肩の荷が下りて「大体で暮らしていこう」と思ったそうです。また、日々の生活の中で「いいこと探し」をしているから、人に「元気ですね」と言われる。外に出掛けて色んな話を聞くと頑張らなくていいんだなと思える。などのお話を聴き、気楽に生きるとは、手を抜いて楽することではなく気を抜いて楽しんでいくことだと思いました。

ご自身の生活やテレビの共演者の話などで会場を沸かせ、肩ひじを張らず気楽に聴ける講演会でした。



男と女の川柳



◆朝のチユー昔は妻にいま愛犬 (結婚三十年目の夫)

◆家事メンはコインランドリーで昼休み (雨の日の夫)

◆毎日が至福の時間夫出張中 (リフレッシュ妻)

◆その言葉日記につけて倍返し (今は我慢の妻)



私の妻は、結婚後も仕事を続けていたので、家事と育児の両立は大変だろうと思い、私が出来ることはしていました。それで、自分は家事、育児に十分理解があり協力的な夫だと思っていました。

ある時、妻が病気で1か月ほど入院し、家のすべてを自分が担うことになりました。実際、自分がすべての家事をしてみても、どれだけ大変だったかが、改めて実感できました。それ以来、妻に感謝、感謝の毎日です。

やめのこめお (妻乃米男)

夫のひとこと

「男と女の川柳」「男の言い分、女の言い分」等々、皆様からの投稿を、随時募集しています。

とうぎやざー編集部『こらぼれーと』まで、郵送・FAXでお寄せ下さい。

お問い合わせ先、郵便・FAX 送付先
八女市男女共同参画推進係

〒834-8585 八女市本町647
電話 23-1314 FAX 22-2186

編集後記

矢部村の「出逢」に取材でお邪魔した帰り道、とても爽やかな気持ちになった。

八女津媛神社、ハート岩……心静かに浸りたい気持ちになる自然と、人の心が上手く調和されたスポットに癒されたのもひとつ。

そしてもうひとつは、自分とは全く違う年代の女性たちと、ゆつくりと交わした会話。

山間のお店に流れる温かい空気は、行ってみなければ味わえない。美味しいものを食べてもらおうと、心を込め手作りされたお饅頭もさることながら、可愛くてたまらないおばあちゃんの笑顔、優しい口調で話される昔話に心底ホッとしたのだ。

3年間日記をつけているとおっしゃったおばあちゃん、働く喜びと感謝の気持ちを綴られていたそう。

男女共同参画の根本は「思いやり」「感謝の気持ち」。地域でも家庭でも職場でも、男女の格差が問題視されることも多いが、その気持ちがあれば、お互い気持ちのいい関係が築けるだろう。

たくさん、たくさん温かい人のつながりが、日本中に広がる！

こらぼれーと M・H

